**東中江和紙加工生産組合**

＜募集するアイデア＞

『悠久紙の売上を上げたい！』

楮(こうぞ)100％の五箇山和紙「＝悠久紙」を活用した新しい事業のアイデア、または新しい販路の開拓アイデアを募集します。

＜視察ツアー＞

日　時：8月20日(水)　10：00～14：30　（お昼休憩、移動を含む）

集　合：東中江和紙加工生産組合 工房前（富山県南砺市東中江582）

参加費：無料

行　程：和紙製造工房視察→楮畑視察・芽かき体験→代表のお話(和紙づくりの行程、これまでの歩み、現状の課題、質疑応答など)→和紙の里見学→相倉集落見学

備　考：

・農作業を行いますので、暑さ対策＆汚れてもよい格好でお越しください。必要に応じて着替えもご持参ください

・昼食代と相倉集落駐車場代の実費はご負担をお願いします

＜事業者の紹介＞

原材料の楮(こうぞ)100％、トロロアオイの自家栽培にこだわり、富山県内で唯一完全手作りの和紙「悠久紙」を手がける、五箇山の製造事業者です。昔ながらの製法でつくられた「悠久紙」は高い耐久性を持ち、京都の桂離宮、名古屋城本丸御殿、勝興寺、その他様々な古文書など、日本を代表する重要文化財の修理・復元に利用されています。

千年の耐久を持つ「悠久紙」を製造するために、本組合では日本で最大規模の楮畑を持ち、丁寧に質の良い楮を栽培しています。また冬には「雪さらし」を行い、日光と反射光の自然の力だけで天然の白さを作りだすなど、300年前から続く伝統的な製法の継続にこだわっています。

＜現状の課題＞

「悠久紙」は文化財の修復紙として一定の需要があります。一方で、今後の事業継続・発展のためには新規事業の展開や新しい販路拡大にチャレンジする必要があり、これまでにも「オンラインショップの開設」や「デザイナーとコラボした悠久紙の帽子制作」などに挑戦しましたが、なかなか売上の拡大にはつながっていない現状です。そこで、学生の皆さんから新しいアイデアをいただき、次なるチャレンジへの一歩にしたいと考えています。

＜事業者からコメント＞

私たちは、昔ながらの伝統的な製法でこれまで手間ひまを惜しまず品質の良い和紙を製造し続けてきました。五箇山には最盛期で100件以上の紙すき屋がありましたが、戦後はパルプを使った安価な紙へと市場がシフトしていき、現在は3つの事業所を残すのみとなりました。その中に残ることができたのは、ひとえに「楮100％」の和紙にこだわってきたからに他なりません。私たちの和紙を重宝してくださるお客様もいます。この伝統をこれから先もずっと残していきたい、そのためにも今チャレンジする必要があると考えています。南砺市の伝統的工芸品である五箇山和紙を後世の残すためにも、ぜひ皆さんの新しい発想・アイデアをお待ちしています！